

# 山本よしかず県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## 山本県議、副議長に就任

山本義一県議は前任の鶴岡宏祥副議長が辞職したのに伴い、第75代千葉県議会副議長に選任されました。投票によって選出された山本県議は、「身に余る光栄とともに、重責を痛感しています。佐野議長を支え、公正かつ円滑な議会運営のため、全力を尽くす所存です」と決意を語りました。



一般質問に臨む山本義一県議

# 飲酒運転の根絶を

安心・安全な千葉県、そしてふるさと八街市を願う山本義一県議は9月定例県議会で登壇し、一般質問に臨みました。八街市で帰宅途中の児童が飲酒運転のトラックにはねられ、5人が死傷した痛ましい事故から1年が経ちましたが、山本県議はこのような事故を再び許すことはできないとして、飲酒運転根絶に向けた取り組みを警察本部長に聞きました。また、新型コロナウイルスによる水際対策の緩和で、航空需要の回復が予想されることから、どのように成田空港の利用促進を図るのかを質問しました。山本県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

### 9月定例県議会一般質問

**山本議員** 私の地元、八街市において、下校途中の児童5人が飲酒運転のトラックにはねられ死傷した事

故から、一年が経過した。二度と飲酒運転による悲惨な事故が起きないように、飲酒運転の根絶と再発防止に

県民が丸となって取り組んでいかねばならない。そこで、県警では、飲酒運転根絶に向け、

どのように取り組んでいくのか。

警察本部長 県警では、昨年6月に発生した八街市での交通事故を受け、「通学路等における交通安全の確保」と「飲酒運転の根絶を対策の柱に、千葉県警察交通安全緊急対策アクションプラン」を策定し、組織の総力を挙げて取り組んでおります。

特に「飲酒運転の根絶」に向けた取り組みでは、県警公式ツイッターや各種イベント等のあらゆる機会を通じて、飲酒運転の危険性や罰則等

加えて、10月1日から「交通死亡事故抑止年末3か月対策」として、飲酒運転を始めとする悪質・危険な違反に重点指向した交通指導取締り等を強化しております。

## 八街警察署 設置を要望

山本議員 八街警察署の設置について、県警の考えはどうか。

警察本部長 警察署の新設につきましては、管轄地域の面積、人口、治安情勢のほか、業務運営の効率性等も踏まえ、総合的に判断しているところでありますが、新設のために必要な署員をいかに確保するかという問題や現下の厳しい財政状況等も考慮すると、現状において警察署を新設することについては困難な状況と考えております。

安心を確保するため管内の治安情勢の変化等を踏まえ、警察官の配置の見直し、あるいは機動捜査隊、交通機動隊、自動車警ら隊などの本部執行隊による応援、移動交番車の機動的・効率的な運用により、警察署の業務運営や地域の治安維持等に支障が生じることのないよう、引き続き、取り組んでまいります。

たハードルは高いものと認識はしている。防犯活動については、特に、昨年の痛ましい事故以降、力を入れていただいております。おかげで、本当に感謝しております。しかし、警察官の負担が増していることも同時に感じている。八街市全域の安心・安全のため、八街警察署の設置を改めて要望する。

●千葉県や八街市のご意見、ご要望をお聞かせください

山本よしかず 県議事務所 TEL.043(440)7070 FAX.043(440)7030

# 水際対策緩和の動き 成田空港の利用促進

山本議員 成田国際空港

は、本県経済にとってのエンジンとなる大変重要な施設であり、まずは、成田国際空港を多くの方々にご利用していただき、活気が戻るように、周辺地域さらには、県内全体が活性化していくものと思っております。

山本議員 社会の変化の中で、本来は消防技術の向上を目指して実施されている消防操法訓練についても、毎年開催されてきた「消防操法大会」のための訓練となり、これが消防団員にとって過度な負担であることみなされ、若者の消防団離れにつながっているとの指摘もされています。消防操法訓練の見直しをどう考えるか。

このような中、国の検討会において、消防操法大会を過度に意識した訓練や動作の見直しが提言されたことを受け、本県では、今年度の大会から、形式的な動きを実践に即した動作とするなど、消防操法の審査基準の見直しを行ったところであります。

このため、今後ともこうした取り組みを通じて、成田空港の利用促進に努めてまいります。

山本議員 成田空

港では、依然として厳しい状況が続いているところだが、10月11日には、1日当たり5万人としていた入国制限の上限を撤廃するなど、水際対策の更なる緩和が行われるといった動きもある。

関係者の皆様のご努力により、成田国際空港の航空需要は本格的に回復し、さらにはコロナ前より増加していくものと考え、更なる機能強化の着実な推進は、空港周辺市町だけではなく、本県経済にとつて重要であると考えているので、引き続き、県としても引き続き取り組まれるよう要望する。

## 消防操法大会のための訓練

山本議員 社会の変化の中で、本来は消防技術の向上を目指して実施されている消防操法訓練についても、毎年開催されてきた「消防操法大会」のための訓練となり、これが消防団員にとって過度な負担であることみなされ、若者の消防団離れにつながっているとの指摘もされています。消防操法訓練の見直しをどう考えるか。

## 消防団離れの一因に

このような中、国の検討会において、消防操法大会を過度に意識した訓練や動作の見直しが提言されたことを受け、本県では、今年度の大会から、形式的な動きを実践に即した動作とするなど、消防操法の審査基準の見直しを行ったところであります。

## インシシ駆除へ 市町村が連携を

山本議員 インシシによる農作物被害防止のために市町村間の連携を強化すべきと思っております。

農林水産部長 インシシなど広域的に移動する野生鳥獣による農作物被害を防止するためには、近隣の市町村が情報を共有し、連携して対策に取り組むことが重要であります。

このため県では、地域ごとに県、市町村及び関係団体で構成する連絡会議を設置し、インシシの出没や農作物被害の状況について情報共有を図るとともに、各市町村における被害防止対策の調整を行っているところであります。

山本議員 引き続き、県が積極的に、市町村間の連携強化を図っていくことにより、着実に対策の効果を上げていただくよう強く要望します。



議場の自席で発言をを求める山本県議

## 個人県民税の滞納 繰越額の縮減課題

山本議員 安定的な財政運営を維持していくためには、徴収の確保に向けて、徴収対策に取り組む必要がある。更なる徴収確保に向けて、どのような課題があるのか。

山本議員 総務部長 県では、徴収確保に向けて、収入未済額の縮減に取り組む。ピークであった平成21年度の35.9億円から、令和3年度は11.7億円と3分の1になりましたが、その額は、依然として高い水準となっております。

このため、徴収確保に向けては、市町村の徴収技術の向上や県と市町村が連携した滞納整理の強化などによる、個人県民税の滞納繰越額の縮減が大きな課題となっております。

## 落花生「Qなっつ」 栽培面積拡大続く

山本議員 落花生について「Qなっつ」の生産状況はどうか。

農林水産部長 「Qなっつ」は、平成30年から販売が始まった新品種であり、見た目がきれいで、甘みが多いことに加え、収量も多いため、栽培面積が拡大している。令和4年度は、前年から7%程度増加したものと見込んでいます。

山本議員 今後の生産拡大や販売促進に係る取り組みはどうか。

農林水産部長 県では、「Qなっつ」が安定して生産できるよう、関係団体と連携し、必要な種子量を確保するとともに、栽培講習会の開催や技術資料の配付に努めてまいります。

山本議員 以上、生産者の認知向上に向け、イベントでの試食品の配布に加え、今年度は新たに小学校を通じて家庭へ配付するリーフレットの中で「Qなっつ」の紹介を行うところであります。

さらに、「Qなっつ」は、ゆで豆への加工特性もあることから、加工業者に対し、ゆで豆としての活用を働きかけています。今後も「Qなっつ」の更なる生産と販売の拡大に努めてまいります。